

## 進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業では、両国の「健康寿命の伸長」と「高いQOLを保つ健康長寿社会の創出」を担うライフケア人材の育成を目指している。その目的実現のため、学長主導のもと、ロシア側連携大学や同分野の企業と連携し、「海外研修」から「健診人材実務者研修」にいたる多層的交流を計画通り推進している。

## 【交流プログラムの実施】

■**ライフケア人材育成に向けた双方向戦略的教育活動**：相互派遣の実施にあたって、各プログラムで両国のライフケア、ビジネス、語学、文化等をバランスよく学べるカリキュラムを組んだ。また上記の内容を英語と日本語で学ぶ「グローバル・プログラム科目群」を設置し、高度な専門知識を身に付けられる体制を整えた。また、質を担保する単位認定も大学間の協働により実現している。

①**海外研修**：2017年度は日露双方から各13名の学生が参加した。2018年度は「望星丸」によるウラジオストク航海を実施した。ロシア側は極東連邦大学、サハリン国立総合大学から39名、日本側は、本学、北海道大学、新潟大学、近畿大学の64名の合計103名による大規模研修を実施した。航海中、講義や文化交流のほか、ライフケア分野における両国の課題と解決策を話し合う日露学生フォーラムを実施した。

②**中期・長期交換留学：受入**：初年度の2018年度は、極東連邦大学、サハリン国立総合大学、国立研究大学高等経済学院（以下、高等経済学院）、モスクワ国立大学から計5名を受け入れた。**派遣**：極東連邦大学とモスクワ国立大学に計5名を派遣した。

③**健診人材実務者研修**：2017年度本学2名、極東連邦大学2名、2018年度本学5名、極東連邦大学5名が参加した。

④**ダブル・ディグリープログラム**：極東連邦大学、高等経済学院との間で制度導入に向けた話し合いを重ねている。なかでも高等経済学院とは、英語による修士のダブル・ディグリープログラム構築に向けた協議を本格化させた。また、ECTSの単位を認定し、UCTSとECTSが定める単位換算率で採用準備中である。

## 【事業推進・運営・情報発信体制の整備】

■**スタートアップシンポジウム（2018年2月）の開催**：国内外から政府関係者、学識経験者、実務者、研究者ら100名以上が参加し、連携企業や医療機関、国内外の専門家による発表や討論が行われた。

■**各種委員会の設立**：本事業に関連する学内部署の委員で構成される全学的な連携体制としてプログラム運営委員会を設置した。同委員会は、事業の企画、カリキュラム編成、留学生選抜等広範な裁量権を持つ。さらに、学内評価活動におけるPCDAサイクルに組み入れ、状況を常に把握・改善することに加え、外部評価委員会による客観的な視点で事業の進捗状況を精査し、透明性を担保している。ロシアの連携大学5校と連携大学共同プログラム委員会を設置し、交流学生の学習状況や生活環境を把握し改善策を検討するなど、質を担保する体制を整備した。

■**学生のサポート体制強化**：本事業の実施を中心的に担う国際教育センターの事務能力、企画運営能力強化のためにグローバルな経験を積んだ人材の積極的な採用と、人事異動による事業担当チームのマンパワー強化を図るとともに、ロシア語を含む11か国語で対応できる体制を整えた。また、広報・連携拠点として本学の極東オフィスと極東連邦大学の日本オフィスを開設した。さらに、本事業の活動は、特設ウェブサイト、SNS等を通じて、日・英・露の各国語で情報を発信した。

■**産学連携による研修の確立**：中期・長期交換留学生を対象に、日露それぞれにおいて企業・医療機関・研究機関等と連携し、日露のライフケア産業や実務を経験する1週間のインターンシップを実施している。また交流プログラム修了後には、確実な就職力の強化に向けてキャリア科目を受講させている。

## 【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

2017年度				2018年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
15人	15人	15人	15人	70人	74人	60人	49人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

## ・運営体制の充実（相互オフィスの開設）

これまでの取り組みを通して、運営体制面・交流プログラム面の双方で順調な取り組みが展開されている。

運営体制の面では、2018年10月には極東連邦大学の日本オフィスが本学の高輪キャンパスに、そして本学の海外連絡事務所極東オフィスが極東連邦大学ルースキーキャンパス内に同時開設された。これによって、本学とロシア側連携大学の連携がより緊密に行われるようになっただけでなく、積極的な広報活動や交流プログラムに参加する学生へのサポートもより円滑に行える体制が整った。

また連携大学との協定締結も順調に進んでおり、2019年3月に開催した連携大学共同プログラム委員会には、全ての連携大学から委員が参加し、本事業の目標達成に向けて事業を推進する体制が整った。



## ・ウラジオストク航海（海外研修）の実施

交流プログラムとして展開している、「海外研修」「中期・長期交換留学」「健診人材実務者研修」においても、着実な成果を収めている。初年度である2017年度は「海外研修」と「健診人材実務者研修」をスタート。2018年度からは「中期・長期交換留学」も始まった。なかでも、「海外研修」においては、2018年8月に本学の海洋調査研修船「望星丸」で日露103名の学生が交流するウラジオストク航海を実施した。



日本からは、本学の学生・教職員のみならず、同じく本事業の採択を受けている北海道大学、新潟大学、近畿大学からも学生と教員が参加してウラジオストクを訪問した。ウラジオストクからは、極東連邦大学とサハリン国立総合大学の学生と教員が加わり、静岡・清水港まで航海した。



航海中は、日露の学生が同じ部屋で寝食を共にしながら、さまざまな課題に、日常よりも高い集中力で取り組むことができた。ライフケア分野における両国の課題と解決策を話し合う日露学生フォーラムを実施し、小グループに分かれて熱い議論をかわし、両国の健康長寿社会の実現やQOLの向上に向けた施策を発表するとともに、この分野における両国の連携の可能性を探った。そのほかにもスポーツ大会や日本文化体験などのプログラムも行った。参加した学生たちは、下船後もSNSを使って日常的に交流を続けるほか、中期・長期交換留学に応募し、この分野への就職活動を進める学生も出るなど、両国への興味・関心を高めるうえで期待以上の効果を上げることができた。



## ・中期・長期交換留学、健診人材実務者研修の実施

本事業採択を契機に、英語・日本語で栄養学や医療、ビジネスなどの専門知識を学ぶ「グローバル・プログラム科目群」を設置した。中期・長期交換留学に参加した学生は受入・派遣にかかわらず、この科目群より12単位以上を取得する。2019年度から全学的に展開し、2020年度から開始予定のUMAPと融合していく。研修プログラムでは、ライフケア分野に関する講義・実習だけでなく、派遣先の医療機関や研究機関、企業の実務を経験する1週間程度のインターンシップも実施している。

プログラムを着実に実施するなかで学生の選考から渡航前教育、プログラムの実施、派遣中のサポート体制を整備した。日本人学生向けの渡航前指導では、外部専門家を定期的に招いて危機管理セミナーを開催。派遣中にはインターネットなどを介して定期的に学習状況を確認するほか、派遣先と緊密な連携を取りながら本学の教員も派遣してサポートしている。ロシア人学生向けには、本学の教職員が渡航前に各大学を巡回し、研修中の生活面や学習面での注意事項を説明。日本での研修中には、派遣元の引率教員と本学の教員が連携し学生のサポートを行った。